

# 行動シナリオの実施状況と今後の展開

## 平成25年度までの主な取組（例）

## 平成26年度（最終年度）の主な取組（例）

<p><b>1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際高等研究所の充実・強化(カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)に加え、サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)を設置)</li> <li>●「博士課程教育リーディングプログラム」の拡充(計9件)</li> <li>●学術研究体制の充実を図るため、研究重点型大学との連携を一層強化し、政府に研究財源に関する規制緩和等を要請</li> <li>●リサーチ・アドミニストレーター(URA)の試行配置、URAスキル標準の完成</li> </ul>	<p><b>2. グローバル・キャンパスの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●英語で学位の取得できるコースの拡充(学部初のコースであるPEAK(Programs in English at Komaba)を含め42コース)</li> <li>●既存のフェローシップ制度の改正や東京大学スカラシップの創設をはじめとした留学生に対する奨学制度の充実</li> <li>●全学交換留学協定校やサマープログラムなど学生の海外派遣プログラムの拡充及び留学情報の広範な提供</li> <li>●インド等での留学フェアや東大フォーラムの開催(フランス、ブラジル・チリ)等を通じた戦略的な国際連携、国際発信の強化</li> </ul>	<p><b>3. 社会連携の展開と挑戦</b> —「知の還元」から「知の共創」へ—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●社会連携を組織的に推進する事務組織として社会連携部を新設、社会連携と国際連携の拠点となる伊藤国際学術研究センターを設立</li> <li>●「インターメディアテック(IMT)」、「UTokyo Research」、大規模公開オンライン講座(MOOC)等を通じた教育研究情報の発信</li> <li>●研究成果の戦略的な社会実装、技術移転活動の促進、大学発ベンチャーの支援</li> <li>●価値創造型共同研究計画スキーム「Proprius21」「Global Proprius」等による国内外企業との共同研究の量的・質的拡大</li> </ul>	<p><b>1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際高等研究所の強化(研究部の設置、カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)の常設機関化に向けた体制整備、新たな研究機構等の設置の検討)</li> <li>●学術研究体制の充実を図るため、研究重点型大学との連携を一層強化し、科学研究費補助金等の柔軟な執行に向けた支援</li> <li>●国際コンソーシアムの枠組みや学術交流協定等に基づき、国内外の研究大学等との連携強化、教員・学生交流の推進</li> <li>●URA制度定着に向けた制度改革の推進、研究マネジメント人材群の育成</li> </ul>	<p><b>2. グローバル・キャンパスの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際センターを通じた全学交換留学の推進及び国際日本学(Global Japan Studies)に関する英語コースの整備</li> <li>●交換留学、サマープログラム等短期留学を支援するメニューの充実</li> <li>●外国人研究者・留学生等へのサポート体制や留学生に対する奨学金の充実</li> <li>●IARU学長会議のホスト開催(平成27年3月)など、戦略的な国際連携、国際発信の強化</li> </ul>	<p><b>3. 社会連携の展開と挑戦</b> —「知の還元」から「知の共創」へ—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●伊藤国際学術研究センター・カンファレンスなどによる社会連携、国際交流の強化促進</li> <li>●「UTokyo Research」、SNSの東大公式アカウント、MOOC等を通じて本学の教育研究情報の国内外への発信を充実・強化</li> <li>●「Proprius21」の改革、イノベーション創出型のコンソーシアム・スキームによる産学連携の更なる追求</li> <li>●大学発ベンチャー支援及びアントレプレナーシップ教育の新機軸に向けた取組の推進</li> </ul>		
<p><b>4. 「タフな東大生」の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「学部教育の総合的改革に関する実施方針」に基づき、総長を本部長、すべての教育研究部局長を委員とする臨時教育改革本部等、全学的な改革実施体制を構築、改革の実行を推進</li> <li>●「学部教育の総合的改革に係るアクションリスト」の実施、全学部での4ターム制の導入、秋季入学の拡充・推進、「部局別改革プラン」の策定・実施を決定</li> <li>●入試制度の改善を推進。推薦入試の導入を決定し、「東京大学推薦入試のアドミッション・ポリシー」を策定</li> <li>●学部学生を対象に体験活動プログラム、初年次長期自主活動プログラム(FLY Program)を開始</li> </ul>	<p><b>5. 教員の教育力の向上、活力の維持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ファカルティ・ディベロップメント(FD)の基本方針の策定と全学的な合意形成の実施</li> <li>●大学教員を希望する大学院学生を対象として、授業力向上を目指すための「フューチャーファカルティプログラム」を実施</li> <li>●新任教員のためのファカルティハンドブックを作成、「東大FD.COM」の構築、教職員向けFDビデオの制作</li> <li>●教員評価制度の運用指針を踏まえた対応の実施、教員の業績に関する情報公開の推進</li> <li>●教授(特例)ポスト制度やクロス・アポイントメント制度等「教員の新たな人事制度の取扱い」を定め、優秀な若手教員ポストを確保</li> </ul>	<p><b>6. プロフェッショナルとしての職員の養成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「東京大学職員の人材育成の推進体制に関する基本方針」に基づき、職員の能力を最大限向上させるための取組を検討・実施</li> <li>●米国大学院留学制度の創設など、職員全体の専門性や技能を高め、高度な資格・学位を有する職員の割合を増やすための各種制度の実施</li> <li>●教職協働の推進、大学運営を進める室・本部や事務組織の見直し</li> <li>●総合技術本部において、技術職員全体の資質の向上や部局技術組織の整備支援に向けた取組を推進</li> </ul>	<p><b>4. 「タフな東大生」の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全学部で授業期間の4ターム制の導入、教育の国際化、実質化、高度化に向けたカリキュラム改革に着手</li> <li>●推薦入試の具体的な実施方法を検討するため、アドミッション・センター(仮称)を設置し、高校との調整・広報及び実施の詳細の設計</li> <li>●初年次教育の充実を図るため、「初年次ゼミ」のパイロット授業を展開</li> <li>●体験活動プログラム、FLY Program等の多様な学びの推進</li> <li>●学生相談体制の充実、経済支援等、学生宿舍の増加など、学生支援の一層の充実・強化</li> </ul>	<p><b>5. 教員の教育力の向上、活力の維持</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「フューチャーファカルティプログラム」の実施により大学教員を希望する大学院学生の授業力向上を推進</li> <li>●FDの効果的な推進のため、情報収集及び状況提供とともに、教員評価等の取組を促進</li> <li>●多様な教員構成の実現に向けて、外国人教員や女性教員の採用に向けた積極的な取組の推進</li> <li>●優れた教育力を有する退職教員の活用を検討</li> </ul>	<p><b>6. プロフェッショナルとしての職員の養成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●職務に必要な能力・経験等の明確化、職員全体の能力の底上げ</li> <li>●女性職員の幹部職員への登用、優秀な若手職員の昇進等を推進</li> <li>●メンタルヘルス対策への積極的な取組として「職務復帰マニュアル(仮称)」の作成・周知並びにメンタルヘルス教育研修プログラムの改定</li> <li>●業務改革の継続的な推進、提案業務の全学展開及びアウトソーシング化に向けた検討</li> </ul>		
<p><b>7. 卒業生との緊密なネットワークの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業生向けの生涯学習プログラム(「東大ワールドカフェ」「グレーター東大塾」「東大モール」等)の実施</li> <li>●SNSを活用した卒業生コミュニティの拡充、外国人同窓生への情報配信の充実、海外同窓会ネットワークの拡充</li> <li>●TFTサービスの強化、学生会員の登録促進</li> <li>●会報誌のリニューアル(「淡青」と「懐徳」の統合、デジタル化)、卒業生名簿新システムの検討</li> </ul>	<p><b>8. 経営の機動性向上と基盤強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●旅費業務の外部委託、リバースオークションの導入など、コスト管理による経費と資源の節減</li> <li>●東大基金の強化、安定的な運用益の確保</li> <li>●施設修繕準備金を制度化し、既存施設機能の健全な維持・向上</li> <li>●温室効果ガス抑制など、環境を重視したキャンパス計画の推進</li> </ul>	<p><b>9. ガバナンス、コンプライアンスの強化と環境安全の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本部に置かれる組織の整理・見直し、業務のスリム化・効率化の推進</li> <li>●危機事象の迅速な把握、的確な処理を行うため「事例で学ぶ危機管理マニュアル」を作成</li> <li>●コンプライアンス基本規則を制定、研究倫理に関するアクションプランの策定</li> <li>●災害時に有効な防災対策の検討・実施、「東京大学の防災対策」の改訂</li> </ul>	<p><b>10. 救援・復興支援など日本再生に向けた活動の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●救援・復興支援室、遠野分室、遠野センター等を開設、救援・復興活動に寄与</li> <li>●救援・復興に係る本学のプロジェクト(登録プロジェクト)の推進</li> <li>●コミュニティア型仮設住宅を提案し、被災地等で建設</li> <li>●学生・教職員によるボランティア隊の派遣、被災地機関でのインターンシップの実施</li> </ul>	<p><b>7. 卒業生との緊密なネットワークの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業生向けの生涯学習プログラムを検証・見直し、一層の充実・定着</li> <li>●基金の創設など、卒業生による経済的支援プログラムの充実</li> <li>●学生に対するキャリア支援や体験活動等の企画など、卒業生活動の活性化</li> <li>●国内外の地域や職域同窓会の設立支援等、卒業生との緊密なネットワークの一層の拡充</li> </ul>	<p><b>8. 経営の機動性向上と基盤強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●部局や教員、OBと連携した渉外活動等による東大基金の充実・強化</li> <li>●事務・事業の見直し等、コスト管理による経費と資源の節減を一層推進</li> <li>●新たに導入した人事制度や施設修繕準備金制度等の戦略的運用</li> <li>●教育研究の継続と環境対策とを両立した節電の推進</li> </ul>	<p><b>9. ガバナンス、コンプライアンスの強化と環境安全の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本部に置かれる組織の整理・見直し、業務のスリム化・効率化、ガバナンス強化に向けた検討課題の精査</li> <li>●各部局における危機管理体制の強化、大学全体として危機管理体制の充実・強化</li> <li>●コンプライアンス総括室の設置によるコンプライアンス体制の充実・強化</li> <li>●研究倫理推進室の設置による倫理教育の徹底・推進</li> <li>●災害時に有効な防災対策の検討、部局と連携した防災訓練の実施</li> </ul>	<p><b>10. 救援・復興支援など日本再生に向けた活動の展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●被災地での活動拠点の整備</li> <li>●登録プロジェクトへの支援の推進</li> <li>●被災自治体のニーズに沿った連携協力の推進</li> <li>●学習支援ボランティアの派遣など、被災地のニーズに応じたボランティア活動を推進</li> </ul>